※令和３年度以前入学生用

学校番号	T3011

令和５年度　芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「美術１」　（光村図書）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・毎時間、最初に 10 分程度のスケッチを行い、鉛筆描写を日常的な習慣にする。
・カッターナイフなどの道具を正しく安全に使えるようにし、毎時間配布されるプリントを糊で貼り、きちんと製本化する。
・一番の目標にそれぞれの作品を完成させることとし、展示できる状態に仕上げる。

2　学習の到達目標

表現教科として、自分の意志、意図、心情、オリジナリティなど、作品を通して表現し、それを他の人にも見てもらうために、展示できる物にまで持っていくことの面白さと、生き方の一手段として重要な活動であるという認識を持たせる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	題材に対して、日常的に目にする物の中に、ヒントになるものを見いだす意欲、意外性の中に、面白いものを見つけ出す態度を身につける。	題材に対して、独創的な発想、アイデアを、網羅的に生み出し、それをスケッチなどで視覚化する。	自身の構想したものを、的確に表現できる技能と、創意工夫することに、挑む意志を持つ。	美術・デザインの作品に対して、理解を持ち、自身の創造性に繋げる。
評価方法	制作の過程、着想などを評価する。また、授業中の態度、集中度も考慮する。	制作し完成した作品にどれだけの工夫を凝らしたか、作品の完成精度も考慮する。	毎回のスケッチの状況	制作の様子、態度の変化の様子

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
通年	絵画	「スケッチ(10～15 分間)」	○		◎		a:毎回の短時間のスケッチでものの多面的な、また細部への関心を持つ。また、集中の様子。 ｃ:陰影をつけることによる立体的な、写実に近づける描写力を身につける。	毎回のスケッチと制作集中度
前期	構成	「ワイヤーフレーム」 (双曲放物線面)		◎	○	○	b:線による構成から、自分自身の発想を表現する。 c:線で分割された面を視覚的に効果があるように丁寧にペンで塗る。 d:双曲放物線の引き方の理解。	制作過程と道具をいかに駆使するかと、完成した作品
	デザイン	車のタイヤのデザイン 「ホイールのデザイン」	○	◎			a:車の一部品のホイールに着目し、そのデザインに興味を持つ。 b:円形の中に収まるデザインを、回ることを想定しながら構想する。	画用紙の立体的な加工と、それを活かした作品
後期	工芸	「堆朱」キーホルダー	◎			○	a:堆朱をやすりで根気よく削り磨く作業への執着心を持つ。 b:積層になっている堆朱の材料の性質を考える。	作業態度。完成した作品と愛着心。
	立体	寄木細工「積層」		○			b:白黒の角材を組み合わせることで、どのような幾何学的な模様を表現するか。	完成作品と作業の丁寧さ

※　表中の観点について　a:　美術への関心・意欲・態度　　b:　発想や構想の能力
c:　創造的な技能　　d:　鑑賞の能力

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。